

令和6年度 県立高等特別支援学校 学校評価項目 ※評価のポイントが2.95以上は黄色、2.54以下は水色で表示しています。

重点目標	実践目標	関連する取組(参考)	教員結果			生徒結果			保護者結果		
			アンケート(教師)	教員集計	カテゴリー別	アンケート(生徒)	生徒集計	カテゴリー別	アンケート(保護者)	保護者集計	カテゴリー別
(1)「職業科」設置校としての進路指導の充実と生きる力の育成	①学校、寄宿舎、家庭(施設)での規律ある生活を通じて、社会人として自立するために必要な生活習慣を身につける。 ②夢や目標をもち、自らの生き方を考え、具体の計画を立て、それに向かって進んでいくキャリアプランニング能力の育成を図る。 ③関係機関及び企業等との連携により、職業実習、現場実習の充実と指導内容の改善充実を図る。	・生徒会・委員会活動 ・授業(各教科) ・部活動 ・宿泊行事、校外学習に向けての取組 ・体育大会に向けての取組 ・文化祭に向けての取組 ・校内実習 ・特別実習 ・企業でのあいさつ実習 ・現場実習 ・進路相談会開催 ・進路セミナー開催	あいさつの力を身につけさせることができている	3.24	2.74	日頃からあいさつはできていますか	3.28	3.11	お子様は、日頃からあいさつができていますか。	3.01	2.87
			自分の思いや困っていることを伝える力を身につけさせることができている	2.58		先生や家族、友だちに自分の思いや困ったことを伝えることができていますか	2.77		お子様は、自分の思いや困ったことを伝えることができていますか。	2.58	
			他人を思いやる心が育っている	2.69		他人を思いやることができていますか	3.05		お子様は、他人を思いやることができていますか。	2.81	
			人間関係形成能力の育成を図ることができている	2.47	2.58	友だちと協力して行事等に取り組むことはできていますか	3.34	2.94	お子様は、友だちと協力して行事等に取り組むことができていますか。	3.07	2.53
			自己管理能力の育成を図ることができている	2.40		金銭や持ち物を自分で管理して使うことはできますか	3.30		お子様は、金銭や持ち物をを自分で管理して使うことができますか。	2.54	
			何事にも意欲的に取り組む態度の育成を図ることができている	2.69		学校や普段の生活で自分のスケジュール(予定)をメモ帳等を使用して管理できていますか	2.50		お子様は、自分のスケジュールを管理できていますか。	2.65	
			マナーやルールを遵守する態度が身についている	2.84		マナーやルールを守ることはできていますか	3.32		お子様は、マナーやルールを守ることができていますか。	2.96	
			自分で判断して主体的に取り組む力の育成を図ることができている	2.51		授業や行事に意欲的に取り組むことができていますか	3.30		お子様は、何事にも意欲的に取り組むことができていますか。	2.66	
			何事にも目標を持って主体的に取り組む態度の育成を図ることができている	2.64		学校や普段の生活で言われてからではなく自分から行動することができていますか	2.62		お子様は、自ら主体的に行動する力が身についていますか。	2.33	
			キャリアプランニング能力の育成を図ることができている	2.42		自分で目標を立てて計画的に取り組むことができていますか	2.69		お子様は、自分で目標を立てて計画的に取り組むことができていますか。	2.33	
						学校や家庭で自分の役割を果たすことができていますか	2.95		お子様は、学校や家庭で自分の役割を果たすことができていますか。	2.72	
						卒業後の生活に向けて自分の生き方を考えることができていますか	2.71		お子様は、将来に向けて自分の生き方を考えることができていますか。	2.16	
						卒業後の進路について、進路セミナーや担任の先生からの情報や相談は役に立ちましたか	3.03		進路についての情報提供や相談は丁寧に行えていますか。	2.42	
(2)専門職としての教職員の資質向上	④個々の実態把握に基づき、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な教育支援、合理的配慮の提供を行う。 ⑤教職員の専門性の向上、指導力の向上をめざし校内研修の充実を図ると共に校外研修の受講を行う。	・就労支援研修会 ・非違行為研修 ・カウンセリングマインド研修 ・熱中症予防研修・対応 ・心肺蘇生法・AED研修会 ・自立活動研修 ・横の連携(医療・福祉・就労)研修 ・校外研修	個々の生徒の実態に基づく、適切な支援、合理的配慮の提供ができています	2.96	2.96	授業や行事において、適切な支援により、「わかった」「できるようになった」と感じたことがありましたか	3.18	3.18	お子様は、授業や行事において、教員の適切な支援ができていますと感じますか。	3.04	3.04
			充実した校内研修を行うことができている	2.96	2.87						
			専門性の向上を図ることができている	2.78							
(3)危機管理体制の構築	⑥火災避難訓練、地震避難訓練、不審者侵入時の対応についての研修、交通安全指導等を行い、生徒が安全に配慮できる能力の育成を図る。 ⑦事件、事故、熱中症、情報漏洩等、あらゆる学校事故に対する、教師の危機管理意識の向上を図り、安心・安全な学校づくりを進める。	・各種避難訓練 ・合同火災避難訓練 ・寄宿舎避難訓練 ・防犯研修 ・携帯電話マナー指導 ・SNS等による人権侵害についての生徒指導 ・メンタルヘルス研修会 ・勤務時間適正化の取組 ・熱中症予防研修・対応 ・心肺蘇生法・AED研修会 ・防災設備体制の確認(学校・寄宿舎) ・学校保健計画 ・学校安全計画 ・防災安全計画 ・学校いじめ防止基本方針の改訂 ・心の教育相談 ・組織的生徒指導体制 ・授業での安全の徹底 ・三田駅での下校指導	生徒は災害等非常時に安全に配慮して行動する力が身についている	2.47	2.48	災害等非常時に安全な行動をとることはできますか	3.20	3.31	お子様は、災害等非常時に自分の判断で安全な行動をとる力は身についていますか。	2.29	2.43
			生徒は様々な危険に対応するための知識や理解を深めることができています	2.49		SNS等、インターネット上のマナーやルールについて理解が深まっていますか	3.37		お子様は、SNS等、インターネット上のマナーやルールについて理解が深まっていますか。	2.35	
						熱中症にならないように自分で気をつけることができますか	3.37		お子様は、熱中症にならないように自分で気をつけることができますか。	2.64	
			あらゆる危機に対して、教職員の危機管理意識の向上を図ることができている	2.62	2.66						
			学校として、あらゆる危機に対する備えができている	2.58							
			危機に直面したときに、組織的に迅速に的確に対応できている	2.78							
(4)開かれた学校づくりの推進	⑧学校をよく理解してもらうために学校情報発信力を高める。 ⑨学校と家庭、また学校と地域の連携を図り、信頼される学校をめざす。	・新入生への説明会 ・入学式 ・体育大会 ・文化祭 ・卒業式 ・上野ヶ原特別支援学校との対面式 ・学校見学会(11月) ・丹南地区学校説明会 ・三田市巡回指導 ・高等学校における通級による指導実践研究事業 ・青空市場参加 ・部活動対外的活躍 ・介護等体験 ・学校評議員会 ・進路通信 ・支援部通信 ・学校通信 ・寄宿舎だより	学校情報を効果的に発信できている	3.07	3.07	学校に関する情報を適切に受け取ることはできていますか				2.63	2.63
			家庭との連携は十分に図れている	3.07	2.96	お子様のことで担任や学年に気軽に相談することはできていますか				3.04	3.04
			行事や様々な取組等において地域との連携を図ることができている	2.84							

令和6年度 兵庫県立高等特別支援学校 学校評価 自己評価と改善の方法

【ミッション】一人一人のニーズを把握し、持てる力を伸ばし高める教育を行う。 ・社会の変化や生徒の障害の状態に応じた適切な教育的支援を行う。 ・一人一人の実態やニーズに応じた多様な進路選択に努める。 ・特別支援教育の専門性向上のため研修の充実を図り、地域における特別支援教育のセンター校としての 機能・役割を果たす。 ・地域との交流、地域の学校との交流、国際交流などを通して本校教育活動の充実を図り本校のことを より知ってもらえるよう情報発信に努める。										A:3.2 ～ 4.0 B:2.4 ～ 3.2未満 C:1.6 ～ 2.4未満 D:1.6 未満
重点目標	実践目標	職員		生徒		保護者		自己評価(達成状況)	学校関係者評価	改善の方法
		自己評価 結果	ABC 評価	自己評価 結果	ABC 評価	自己評価 結果	ABC 評価			
(1)「職業科」設置校としての進路指導の充実と生きる力の育成	① 学校、寄宿舎、家庭(施設)での規律ある生活を通じて、社会人として自立するために必要な生活習慣を身につける。	2.7	B	3.1	B	2.9	B	・日常での挨拶やマナー・ルールを守る態度については、教職員と生徒の評価が昨年度に比べ値が低下した。 保護者の評価は昨年度と同じである。 生徒は規律ある生活をきちんと理解して取組んでいると思われる。一方で、生徒が思う基準が高くなり、それに伴う評価の平均が下がったのか、またはそれ以外の理由があるのかについては、今後の状況も踏まえた上で見極める必要がある。 ・生徒は目標を立て、主体的かつ意欲的な姿勢で何事にも取り組んでいる様子が見られる。 ・例年、生徒や保護者は進路や将来について不安を感じている。 しかし、進路指導部や学年・担任からの丁寧な情報発信や、生徒の状況に合わせた適切なアドバイス等を受けている。引き続き生徒を誘導し、将来の進路実現に向けてさらなる指導を行っていかねばならない。	【生徒の生活習慣の向上】 ・生徒が自ら「質問できるようになる」から、周囲の状況を見ながら「適切な質問ができるようになる」ということを目標に行動変容をしてほしい。 ・校則の見直しを進めている最中である。生徒、保護者、教職員それぞれの代表が話し合う機会を設定してきた。多数決ではなく、双方の合意のもとに見直しを図っていくこととしている。 ・校則にある男女問題については、この問題を討議する前に人権意識をもって人と接していくということがある。これを学校で指導するのは難しいと考える。積極的に外部団体や組織に委託し、より良い人権意識を育てるための一方法として活用していくことも考慮してはどうかと思う。	【生徒の生活習慣の向上】 ・引き続き、支援部と生徒指導部を中心にした情報交換会を定期的に実施し、学年や担任以外の教職員にも生徒の情報を共有することに努めていく。そうすることで、様々な場面あらゆる機会を通して生徒の指導に当たれるよう努めていくようにする。 ・生徒のちょっとした変化にも教職員が気づく事ができるよう、日常から生徒の様子をよく観察している。今後も、より一層生徒が教職員に気軽に相談できる環境や雰囲気作りに努める。
	② 夢や目標をもち、自らの生き方を考え、具体の計画を立て、それに向かって進んでいくキャリアプランニング能力の育成を図る。	2.6	B	2.9	B	2.5	B	【生徒のキャリアプランニング】 ・生徒は主体的によく考え行動している。教職員は、生徒たちに未来を見据えて行動できるよう、その大切さや考え方をあらゆる機会を通して常々説明してきている。生徒自身がそれについて認知する能力や知識の習得の幅も広く、この点もよく考慮されていると感じる。 ・学年によっては、自分の将来に関することについての値が低い場面も見られる。この点については、今後の取り組みをどのように展開していくかが課題である。 ・生徒たちは「学校はしんどかった」とは言っているが、一方で保護者の立場からすると、成長できた実感する場面が多くあると感じている。例えば「楽しかった」、「友達ができた」と親子の会話の中で子どもから出ている。自己肯定感を示し高められている生徒、成功体験を積めている生徒が多いと感じる一面である。 ・仕事を続けるには体力が必要で、実習で取り組んだ成果が出ていると感じる。 ・キャリアプランニング能力の項目に関しては、保護者、教職員とも数値が高くない。就労や将来の自立に向けてまだまだ足りていないところがあると思われる。	【生徒のキャリアプランニング】 ・授業や行事を通じて生徒が主体的に学び、目標を設定し、その達成方法について教員と共に考える機会を増やす。 ・担任だけでなく、進路指導部や外部講師、卒業生を招き、就労や卒業後の生活に関する具体的な話を聞くことで、卒業後の進路選択につなげる。	
	③ 関係機関及び企業等との連携により、職業実習、現場実習の充実と指導内容の改善充実を図る。	3.2	A					・進路指導部を中心に各関係機関や企業等との連携を積極的に行った。 現時点での就労状況も良く、各生徒の特性を理解した就労先を探すように引き続き努める。 ・進路指導部や各学年から保護者、生徒への進路情報提供や相談体制のあり方にも状況に応じた改善や工夫があり高評価であった。	【保護者や地域との連携】 ・青空市場に毎年出店し生徒会の生徒を中心に販売活動を行い、毎年好評を得ている。 ・卒業生が毎年のように体育祭や文化祭を楽しみに参加してくれている。 ・キャリア教育・就労支援推進事業等を活用し、就労・生活支援センターより安全面などの指導を受けることができた。 ・「食べられない」「眠れない」ということを自分から言えない人がいる。仕事を休んでしまうと雇ってもらえなくなるので、働き続けるためにサポートできる体制が必要である。	【保護者や地域との連携】 ・保護者・地域・学校が連携する体制を常に維持できるよう、情報発信と相談対応を行う。 ・卒業後の生活や就労に関する情報をホームページやプリントなどで発信する。また、保護者や生徒からの相談に丁寧に応対する。

(2)専門職としての教職員の資質向上	④ 個々の実態把握に基づき生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な教育支援、合理的配慮の提供を行う。	3.0	B	3.2	B	3.0	B	・支援部と生徒指導部を中心に会議を設定し、教員全員で生徒情報の共有を積極的に行った。教員（寄宿舍指導員含む）が生徒たちを理解し、学校全体で連携した対応ができていた。	【生徒の一人ひとりへの支援・配慮】 ・黒板、ホワイトボード、モニター等の扱い方の研修が必要ではないか。生徒の視点に立ち、視覚的な認知や理解しやすい色遣いなどのさらなる工夫や配慮も必要である。 【教職員の専門性の向上】 ・先生方は日々忙しく、全員揃っての研修は難しいこともあると思う。そのためには研修の持ち方についての工夫が必要である。例えば、ZOOMの活用であるとか、動画を短く編集して短時間で視聴できるように小分けにしたものを個人で時間を作って視聴したり、動画を少し速い再生速度にして視聴する方法が考えられる。	【生徒の一人ひとりへの支援・配慮】 ・自立活動の重点課題を明確にし、実態と課題に応じた目標設定や手立て、評価ができるようにすることで生徒一人ひとりの適切な教育支援や合理的配慮を行う。 【教職員の専門性の向上】 ・卒業までにつけたい力を段階的に設定できるよう、共有した生徒情報を基に、3年間を見通した教育計画を作成する。 ・授業でiPad等のICT機器が活用できるよう研修を行う。 ・特別支援教育の視点から目標を明確にし、卒業後の生活に役立つ内容を増やしつつ、生徒一人ひとりにあった段階的な授業計画を立案し、計画する。
	⑤ 教職員の専門性の向上、指導力の向上をめざし校内研修の充実を図る。	2.9	B					・外部講師を招いた研修を複数回実施した。講師の方に生徒の様子を実際に見てもらい、現在の本校の実態に合わせた話をしてもらうなどした。また、教務部によるICT機器や情報セキュリティに関する研修も実施した。本校は文部科学省よりDX推進校に指定されており、今後も教員全員がICT機器の効果的・積極的な活用ができるように研修していかなければならない。		
(3)危機管理体制の構築	⑥ 火災避難訓練、地震避難訓練、不審者侵入時の対応についての研修、交通安全指導等を行い、生徒が自分の判断で安全に配慮できる能力の育成を図る。	2.5	B	3.3	A	2.4	B	・生徒の危機管理能力の育成では、生徒が自分自身で様々な危機を回避する方法を訓練等で実践理解を深めた。ただし、生徒の数値と職員・保護者の数値に差があり、引き続き生徒が自分で命を守る行動がとれるようにすることを続けていく必要がある。	【生徒の危機管理意識】【学校の危機管理体制】 ・警察に研修依頼をし、不審者対応訓練を実施した。その際には、さすまたの研修も行った。今後も、不審者対応等の研修を継続して実施していくことが肝要である。 ・生徒と保護者・教職員との間で、インターネットやSNSのマナーやルールについての危機管理に対する認識の差が大きい。特に生徒は危機管理ができていないと評価しているが、保護者・教職員はできていないと評価している。生徒に対しては、引き続き継続的な指導が必要であると感じる。 ・アンケートの質問の表記の仕方によっては、生徒の回答が変わってくることが考えられる。状況がより具体的にイメージできるような質問の仕方や手立てが必要でないかと思う。 ・学校内だけではなく学校外でも、自分で判断し、自分の命を守る行動ができるように引き続き生徒の危機管理能力の育成をめざして取り組んでいく。	【生徒の危機管理意識】 ・命を守る大切さを機会あるごとに伝え、いざという時に自分で判断して命を守る行動がとれるよう、より具体的な訓練を繰り返し実施する。 ・今年度、3学年で行った生徒の実情に合わせたグループ別学習を他学年でも実施できるよう計画し、男女関係に関する学習を行うとともに、保護者にも学んでいただく機会を作る。 【学校の危機管理体制】 ・同一敷地内の上野ケ原特別支援学校との合同避難訓練を実施し、危機管理体制の整備と強化を行う。
	⑦ 事件、事故、熱中症、情報漏洩等あらゆる学校事故に対する教職員の危機管理意識の向上を図り、安心・安全な学校づくりを進める。	2.7	B					・熱中症に関しては、熱中症特別警戒アラートを常に意識し、暑さ指数に応じて注意事項や活動指針等を定め熱中症対策を行った。 ・著作権や個人情報の取り扱い等については、徹底することを意識付け、ヒヤリハット事案があればすぐに教職員全員で情報の共有をするなど、日常から危機管理の向上を各自が意識できるよう引き続き研修等を実施していく必要がある。		

(4)開かれた 学校づくりの 推進	⑥ 学校をよく理解してもらうために、学校情報発信力を高める。	3.1	B			2.6	B	・定期的に総務部、進路指導部、保健安全部、支援部等からの通信を発行し、時期に応じた話題や学校からのお知らせを効果的に発信することができた。 ・ホームページではブログで授業や行事、部活動など日々の様子を写真や文章で紹介し、引き続き情報発信に力を入れている。 ・広報用ポスターを学校見学や販売活動時に掲示することで、広く学校の広報として活用した。	【情報発信】 ・情報の発信については、ブログで発信している。 ・ホームページやブログは興味のある人、または関係者しかアクセスしないのではないか。何か、普通に目に留まるような発信の方法も必要である。情報収集の仕方は人それぞれなので、媒体も違っていると思う。	【情報発信】 ・学校行事等の情報をホームページで配信し、ブログでは学校の様子を日々更新することで、引き続き本校の理解促進に向けた広報活動を実施する。 ・学校評議員だけでなく、地域の企業の方を招いての授業見学や授業検討会を実施し、本校と生徒の様子や学習活動を知ってもらう機会を今後も作る。
	⑦ 学校と家庭、また学校と地域の連携を図り、信頼される学校をめざす。	3.0	B			3.0	B	・担任や学年主任、生徒指導部・進路指導部・支援部・寄宿舎等、各家庭と連絡を取り協力しながら、良好な関係づくりができています。 ・福祉や医療等関係諸機関、地域の企業とも連携する事ができ、必要に応じて問題解決にあたることができた。	【保護者・地域との連携】 ・この学校卒業して約10年たっても文化祭、体育祭に参加させてもらっている。のじぎくスポーツ大会に参加することも教えてもらうことができ、毎年参加するきっかけともなっている。 ・この学校で将来につながる友だちもできて良かった。 ・卒業したら就職できると期待して高特に入学した途端に、就労移行とかB型とか言われても何の事かわからなかった。もっと丁寧に保護者に伝えてほしい。 ・ホームページでのブログでは顔がはっきり映っていることが少なくあまり見る気にならない。他の手段も考えてはどうかと思う。	【保護者・地域との連携】 ・学校間交流だけでなく、地域のイベントや交流活動に積極的に参加する。 ・保護者と直接対話する機会をできるだけ多く設定し、本校の取り組みを共有する。